

カヤノ平自然休養林入込者の意識調査

飯山・山ノ内担当区事務所 山田 新太郎

要 旨

カヤノ平自然休養林への入込者に対する、アンケート調査を通して、今後の国有林野事業のPR及び自然休養林の費用負担のあり方等についての、意識調査を行ったので、その結果を発表する。

はじめに

カヤノ平自然休養林は、昭和48年に設定されて以来、地元木島平村の協力のもとに、自然景観の保全を基調とした施設の整備に努めて来ている。

また、自然休養林開設以来、10数年の歳月が経過したこともあって、いまや知名度はかなり高い。しかし、近年の国有林野事業を取巻く、きびしい経営状態の中でも、老朽化及び当地域特有の豪雪による被害等からくる、遊歩道や管理施設の修理等の維持管理が、十分に行えない現状である。

こうした現状を背景に、国有林及び自然休養林に対する国民の意識を知るため、入込者に対するアンケート調査を試みた。

1 カヤノ平自然休養林の概要

この休養林は、上信越高原国立公園の奥志賀にあって、志賀高原、野沢温泉及び秋山郷等のほぼ中央に位置しており、スーパー林道により、互いに結ばれているため、単独完結型の観光地としてのみでなく、これら、周囲の観光地との有機的な周遊コースともなっている。

ブナ天然林と高層湿源で知られるが、夏は冷涼な気候であり展望も良く、中央にある牧場による、高原の牧歌的イメージも受け、入込者は年々多くなって来ている。

面積は、1,176haである。

II アンケート実施方法

アンケート方法は、この休養林の中央で宿泊及び食堂を営む、カヤノ平ロッジの協力を得て、ロッジに立寄った入込客に対するアンケート用紙への記入と、その回収を行った。

ただし、山採取り、小中学生の集団キャンプなどでの入込者は、本調査にそぐわないので調査の対象外とした。

参 考（年間入込者は、3万5千人程度である。なお、冬期間は、豪雪のため閉鎖）

1. 調査期間

7月～8月

2. アンケート回収枚数

178枚

III アンケート内容及び調査結果

1. 性別、年代別、職業別内訳表

（考 察）男女別で、男性が多い理由としては、公共交通機関が無く、自家用車利用となること、

カヤノ平自然休養林略図

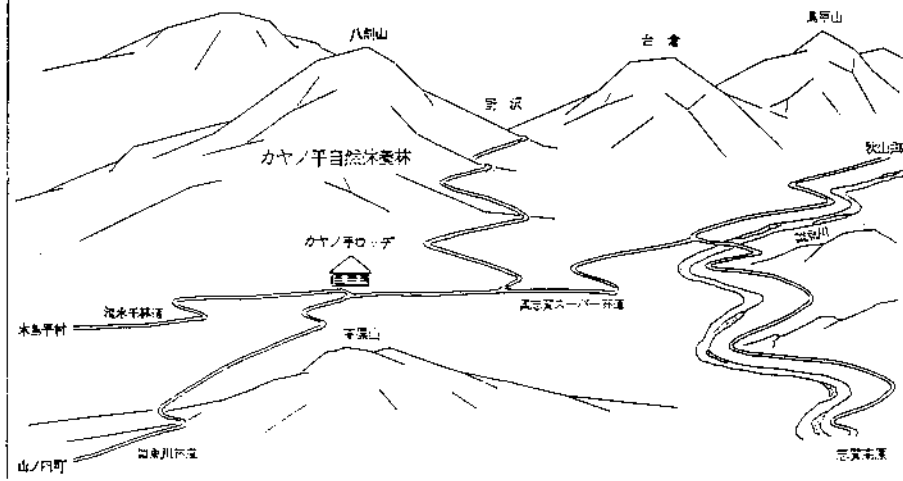


図-1 カヤノ平自然休養林略図

表-1

性別	男	女	不明
人数	109	63	6

年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明
人数	16	82	28	23	15	11	3

職業別	農林業	自営業	会社員	公務員	主婦	その他	不明
人数	2	11	60	46	18	36	5

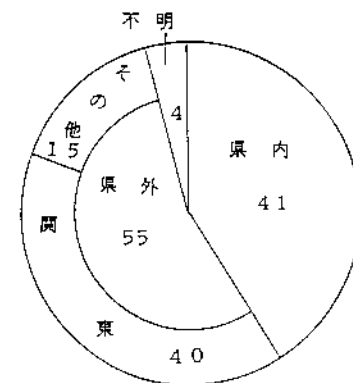


図-2

深山のため女性の単独行が、ちゅうちょされることなどによるものと思われる。

年代別では、20代が最も多く、志賀高原からこの休養林を経由した、野沢温泉又は秋山郷へのド

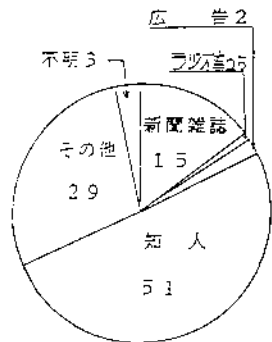


図-3

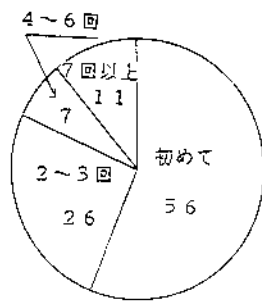


図-4

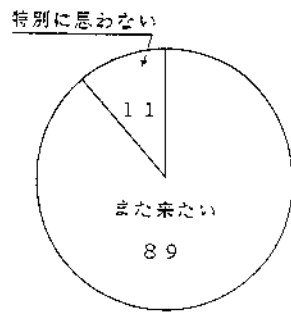


図-5

ライブコースとして利用していることがうかがえる。

職業別では、会社員、公務員が過半数を占めている。

また「その他」の内訳は、半数近くが学生である。

2. 出身地別

(考察) 県外では、関東地方からの入込者が、県外全体で、7割強と大多数を占めている。遠い都道府県では、北海道、鹿児島などもある。

3. (1) カヤノ平自然休養林をなにかから知りましたか。

(考察) 知人の紹介が過半数と、口コミによるものが多い。

また「その他」の中には、志賀高原等宿泊地でのホテルの紹介によるものがかなり含まれている。

4. (2) ここへ来たのは何回目ですか。

(考察) 初めて来た人が最も多く56%を占めている。

また、7回以上では、毎年という人もかなり多い。

5. (3) また来たいと思いますか。

(考察) 通常の観光地のように、はなやかな施設はないにもかかわらず、「また来たい」が89%と圧倒的に多いことは、この休養林の素朴な自然が好まれているためであろうと思われる。

6. (4) この自然休養林が国有林であることを知っていますか。

(営林署が維持管理していることは?)

(考察) 国有林であることの認識は、69%と高いにもかかわらず、営林署が維持管理していることは30%と意外に知られていない。

ア 国有林に対する認識について

全体としては、年齢が高くなるほど、維持管理を営林署が行っていることの認識は高くなっている。

また、「県内外別」でみると、県内は、全体と同様に年齢が高いほど認識が高い。県外は、特に特徴的なものはみられない。県内で、50代、60代が多い原因は、営林署と地域との係わりが深かった当時の世代であることからきているように考えられる。

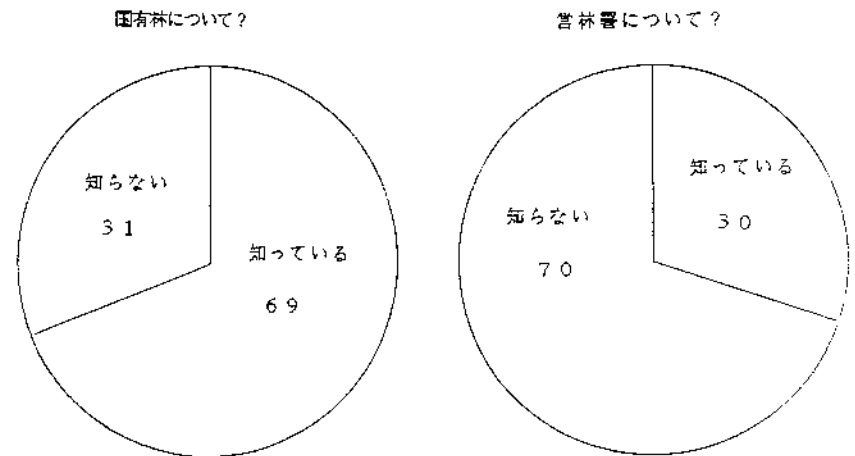


図-6

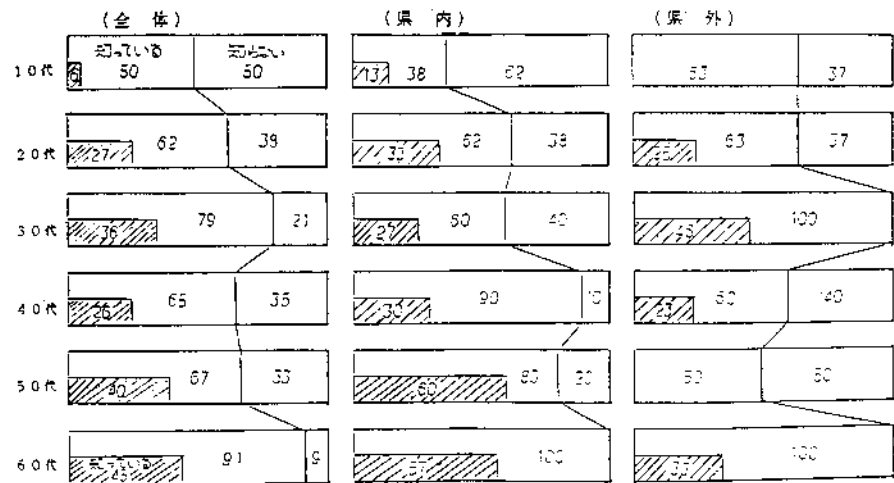
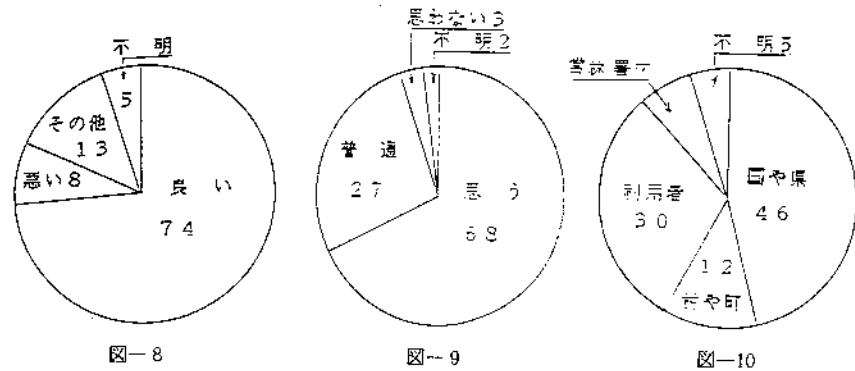


図-7 営林署が維持管理していることを知っている割合

図-7



また、林道の舗装を行ってほしいという意見も多くあがっている。

おわりに

カヤノ平自然休養林の維持管理を営林署が行っていることが意外に知られていないことは、管理運営等が、好評なだけに残念であり、特に、若い世代の認識が低いことから、今後この世代へのPR方法について、一考を加える必要があるのではなからうか。

また、維持管理の費用については、営林署以外の国や自治体が負担すべきだとする者が過半数に達しているが、その反面、利用者が負担すべきだとする者も、30%もの高率である。

営林署が負担すべきだとする者は、予想外に少なく7%にすぎなかった。このように、費用負担のあり方に対する、入込者の意識は、予想外に高く、公共負担に対する国民の考え方は、存外利己的でないとも考えられる。

あるいは、森林の公益性に対する認識が、近年高まって来た故であるとも言えるかもしれない。今後、入山料の検討等の参考になれば幸いである。

(参 考)

総理府の「みどりと木に関する世論調査」(昭和61年8月1日、面接聴取結果)でも同様な質問に対し、利用者も一部負担すべきだとする者が、44.2%とかなり高い数字を示している。

7. (5) 遊歩道、ベンチ、炊飯場、休憩所などの施設の印象はどうでしょうか。
 (考 察)「自然と調和して良い」が、74%と高く、現状の施設で不足はないようである。
8. (6) ゴミや空缶などは、良く片付けられていると思いますか。
 (考 察)「良く片付けられている」「普通」を合せると95%となり、管理については好評である。
9. (7) 遊歩道、ベンチ、炊飯場などの設置やゴミ片付けの為に、お金がかかりますが、そのお金は誰が負担すべきだと思いますか。
 (考 察) 営林署以外の国や県が負担すべきだとする者が46%と多い反面、利用者が負担すべきだとする者も、30%にも達していたことは、全く予想外であった。同様に営林署が負担すべきだとする者も7%と予想外の少なさである。

これを「職業別」「年齢別」でみると次のとおりである。
 全体でみたものと同様な傾向で特に顕著な特徴はみられず、「職業別」「年齢別」を通してほぼ一様であった。

10. (8) この休養林についてのご意見、ご感想をお聞かせください。
- ア 意見、感想
- a このままの自然を保ってほしい。
 - b 永久に保存してほしい。
 - c 素朴なふん囲気をいつまでも残してほしい。
 - d 林道の舗装を行ってほしい。
 - e トイレ、ベンチ、休憩所等の充実をしてほしい。
 - f ハデな観光地化がされていなくて良い。
 - g 施設は増やさないでほしい。
 - h 都会の人間には最高に良い。
 - i もっとPRをした方が良い。

(考 察)「このままの自然を保ってほしい」が、多数を占めており、施設関係の充実を望む意見は少なかった。

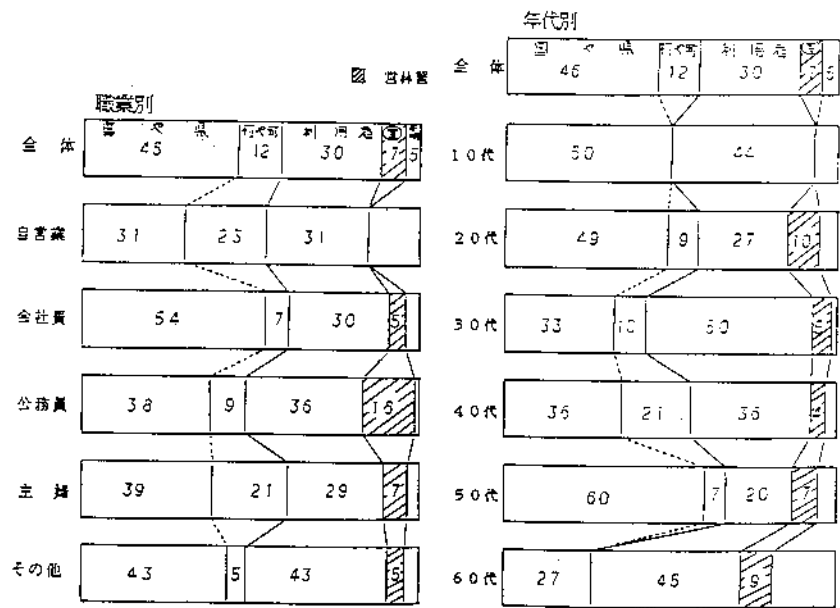


図-11